

# なかやま タイムスリップ Vol.2

今から50年前…

1963

(昭和38年)

賑わう最上川の水泳場



長崎水泳場は内陸地方にプールができてきたことや川の水難事故が絶えず、川の汚れが悪化していったことから、昭和41年に閉鎖されたんですも。



案内人 すもものしずくちゃん  
すもものしずくちゃんの詳細はフェイスブックで

毎日暑くなつて、プールが楽しい時期になってきましたね。今から50年以上前はこのあたりにプールがあまりなかったたので、海の無い内陸地方の人々は夏の暑さははらう絶好の場所として、最上川の長崎水泳場に足を運びました。長崎水泳場は内陸地方唯一の水泳場として、鉄橋と当時の長崎橋間の流れの緩やかな天然プールとして親しまれ、この時期連日1000人以上の人出で大賑わい。川辺には売店、休憩場、脱衣所、監視所などが設けられ、舟や浮き袋などが貸し出されました。また、河畔では連日学生や子供会のキャンプ風景が見られ、夜は最上川で釣ったアユを焼いて食べたり、キャンプファイヤーをして賑わっていました。



金沢 白山神社



花卉の図36枚

## 文新田 服部さん 125年前の先祖の絵にご対面



白山神社を訪れた服部さん

白山神社の天井に描かれてある36枚の「花卉の図」。この絵は明治21年(1888)に服部旭峰が描き、白山神社に奉納したものです。四季折々の花を繊細に描いたもので、当時流行したといえます。町郷土研究会の皆さんは文新田在住の服部文信さんがこの旭峰の子孫にあたることを偶然知り、本人にこのことを伝えたと、ぜひ見てみたいということになりました。また、服部さんも同じ白山神社に奉納され、先日、町指定有形民俗文化財となった絵馬「菓子屋図」を描いた佐藤旭真が旭峰の弟子であることなどを偶然知り、この絵を見てみたいと思っていたところでした。そんな偶然が重なり、125年前の先祖の絵と対面した服部さんは「ご先祖様が私をたぐりよせ、この絵に対面させてくれたようだ」と、とても感激したようでした。

# フレッシュ通信 Vol.2

みさと  
渡辺 美紗登さん  
(22歳)



- 住まい 小塩
- 趣味
  - ・お菓子作り。特にバイクドチーズケーキが得意です!
  - ・ドライブ。最近は夜景を見に行ったりします。
- 好きな食べ物
  - ラーメンが好きで、町外に食べに行ったりもします。
- 好きな男性のタイプ
  - 遊び心を忘れない人、楽しい人
- 尊敬する人
  - 父、目標に向かって努力する人
- 中山町のこんなところが好き!
  - ・緑豊かな景色や、視覚だけでなく匂いや音で季節を感じられるところ。自宅から県野球場が近いので、声援が聞こえると「夏だなー」と感じます。
  - ・公共施設が充実していて住みやすいところ。学生の頃、資格試験の勉強でほんわ館を利用していました。2階の学習室は、静かで勉強には最適な環境でした。

今回は、渡辺美紗登さんをご紹介します。美紗登さんは、大学在学中に看護師、保健師、助産師の3つの国家資格を取得。今年4月から、助産師として山形市内の病院で働き始めた新社会人です。

現在はどのような仕事を  
しているのですか?

病院内のNICUというところで働いています。NICUは、いわゆる赤ちゃんの集中治療室で、未熟児や呼吸する力の弱い赤ちゃんに、呼吸や循環機能の管理など専門の医療を提供するところなんです。赤ちゃんの命を預っているんで、常に緊張感を持って仕事に取り組んでいます。

大変な仕事ですが、赤ちゃんが元気にミルクを飲んでくれる姿や、赤ちゃんの退院が決まってご家族が喜んでくれる様子を見ると、私まで嬉しい気持ちになり、改めて「この仕事を選んでよかった」と実感します。

3つの資格をお持ちですが、  
助産師として働こうと思った  
理由を教えてください

同じ女性として、人生の一大イベントとも言える出産のお手伝いをしたい、

新しい命が誕生する喜びの瞬間に立ち会いたいと思い、助産師として働くことを決めました。

今後の目標を教えてください

新人なので、今はまだ先輩方にフォローをしていただきながら働いています。当面の目標は、少しでも早く仕事を覚え、一人前になることです。その次の目標は、出産に立ち会って、赤ちゃんをお母さんのもとに迎え入れるお手伝いをする事。色んなことを経験しながら知識と技術を身につけて、信頼される助産師、お母さんの気持ちに寄り添える助産師になりたいです。

この取材の前日、初めての夜勤を終えたばかりだという美紗登さん。「勤務中は必死であり疲れを感じなかったけれど、終わった途端と疲れまじり。体力のいる仕事だけど、すごく充実していて楽しいです!」と笑顔で話してくれました。

美紗登さん、  
ありがとうございました!

